

放射能の危険から 子どもたちをまもる

みなさんと
力を合わせます

日本共産党

放射能汚染 徹底した調査と迅速な除洗を

大気に放出されたセシウム137（量が半分になるのに30年かかる）は、広島型原爆の168倍—大量の放射性物質が広範囲に放出され、国民の放射能への不安が広がっています。とりわけ、放射能への感受性が高い子どもの健康をまもることは、日本社会の大問題です。

日本共産党は、各地で住民のみなさんと力を合わせて放射能汚染の調査などを行うとともに、緊急除洗と大規模で長期的な除洗を、国が全面的に責任をもってすすめることを求めています。

原発ゼロの日本 めざします

福島第1原発事故から半年。原発被災者は、いまも不自由な避難生活を強いられ、放射能汚染による健康不安は全国に広がっています。

このまま原発に依存した社会をつづけていいのか—福島原発事故は、大きな衝撃とともに重大な問題を突きつけました。

日本共産党は、「原発をなくしてほしい」と願うすべてのみなさんと手をたずさえて「原発ゼロ」をめざします。また、国会へ向けた「原発ゼロ」署名に取り組んでいます。ぜひ、ご協力ください。

署名用紙は、下記のHPからダウンロードできます。
http://www.jcp.or.jp/tokusyu-11/04-genpatsu_syomei/

自然エネルギーの発電能力は原発の40倍

原発をなくして大丈夫？—心配ありません。政府も太陽光、中小水力、地熱、風力だけでも原発の40倍の発電能力があると試算しています。

この5年間で原子力対策には2兆円以上税金をつぎ込んできました。原発に依存せず、エネルギー予算の主役を自然エネルギーに本格的に切り替えることが必要です。

**「しんぶん赤旗」を
ぜひ、ご購入下さい**
毎週発行する「読者ニュース」も好評です

ご購入いただいた読者のみなさんには、「しんぶん赤旗」に折り込んで、無料でお届けしています。町政の動き、議会でのできごとなど、身近な話題を毎号お届けし、たいへんご好評をいただいています。「読者ニュース」が楽しみだからとっている、という方もみえるくらいです。

日刊 月3400円
日曜版 月800円

「しんぶん赤旗」のお申し込みと法律・生活相談などは—
梶田 稔 (72-3055) 梶田 進 (73-8908)

国民の声は 政治を動かし始めています

5月、世論の力で、東海地震の想定震源域の真上にある中部電力・浜岡原発を停止に追い込みました。さらに、「しんぶん赤旗」がスクープした九州電力の「やらせメール」問題で、玄海原発の再稼働がストップ。その後、四国電力、北海道電力でも「やらせ」問題が発覚。国民をあざむき原発を推進する政府と電力会社に批判の声がひろがり、各地で原発再稼働に「待った」をかけています。

愛知県学校給食会が放射性物質の検査

9月7日、愛知県学校給食会が、放射性物質の検査を実施することを発表しました。

「基準値を超える物質は流通していないと考えられるわけですが、保護者等の不安が完全に払拭されたわけではありません。従いまして・・・保護者等の不安を少しでも解消するために、また本会の取り扱い物資に対する信頼を確保するために」「独自に」検査を実施するというものです。